## 蒔かれた竜の歯は戦士となって相争う

神話や伝説は遠い過去の記憶を背負っている。それらは詩と真実のあわいに有り、単なる作り話とは言えない。そして更には歴史へと繋がって行く。古代のギリシャにおけるテーバ



(カドモスの竜退治)

イの始祖カドモスの不思議な運命と、そ の一族を襲う悲劇の物語は、我々の興味 をそそって止まない。

舞台はミュケナイ文明の時代である。フェニキアの王子カドモスは「牝牛が倒れた所に都を作れ」というアポロンの神託に従うことにしたが、ある所でアレス神の飼う竜を殺した事により、その子孫にまでもつねに不運が付き纏う事になる。ミュケナイ時代はいわば「東方化」の時代でもあり、様々な発掘品からもテーバ

イがフェニキアはもちろん、クレタやシリアやメソポタミア地方などとの交流が盛んであ

った事が伺える。カドモス自身がギリシャに文字を (4ヵリア) かい したとの説がある所以である。

ソフォクレスのギリシャ悲劇「オウィデプス王」では、王が民衆に「テーバイの人々よ、古きカドモスの子孫等よ」と呼び掛けるところから始まる。 テーバイ伝説が作られたその時代的背景を探りたい。



## 世界古代文明の謎を探るシリーズ(84回)「テーバイ王カドモスと一族の悲劇」

主 催 アストライアの会

協 力 日本ギリシャ協会 日本セカンドライフ協会

講 師 佐藤育子さん 日本女子大学学術研究員

期 日 令和6年4月22日(月)午後2時~5時

会 場 としま区民センター会議室 401 (池袋駅東口)

費用お茶代込み参加費二千円

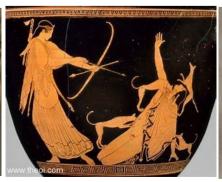
連絡先 松原和雄 TEL/FAX 049-258-3218



(デルフォイのアポロン神殿跡)



(カドモスと竜)



(アルテミスとアクタイオーン)



(アレス神)